

平成 29 年度第 1 回伊勢市まち・ひと・しごと創生会議 議事要録

◆日時 平成 29 年 6 月 28 日（水）19：00～20：30

◆会場 伊勢市労働福祉会館 2 階大会議室

◆出席委員

山本 誠委員、酒徳 雅明委員、福村 伝史委員、中村 基記委員、西 勝美委員、
木村 成吾委員、齋藤 平委員、三輪 勝也委員、前澤 謙行委員、松山 泰久委員、
長谷川 敦子委員、美濃 松謙委員、山川 一子委員

◆欠席委員

吉川 真介委員、秋山 則子委員

◆出席職員

情報戦略局【情報戦略局長、情報戦略局参事兼企画調整課長、同課長補佐、同主査
情報調査室調査統計係長】

産業観光部【観光誘客課長、観光振興課長】

◆内容

(1) 地方創生加速化交付金を活用した事業の効果検証について

- ・ 諮問内容の確認
- ・ 国から交付を受けた次の交付事業について、総合戦略で示すKPIへの効果について検証

【交付事業の名称】

まちづくり会社を中心としたDMOの構築支援事業

【事業の評価】

本事業はKPI達成に有効であった。

【意見】

- ・ 本事業の実績値が指標値に対して上回っている、又はほぼ指標値どおりに推移していることは良い点であった。
- ・ 今後、総合戦略のKPIの視点にいれて事業を進められたい。
- ・ 実績報告書の事業内容中、年度及び指標に関係する表記が一部分かりにくい点があったので明確になるよう改められたい。
- ・ 本事業の体験メニューの中に総合戦略区分に直接関係するものがないので、今後の検討とされたい。

【質問】

- ・ 観光地魅力創造事業の「コト旅in伊勢」キャンペーンとはどのような内容か
⇒18歳から34歳まで利用できるターゲットを絞った形でのクーポンの販売、また宿泊についても同様に年齢枠を設け、期限を設けてこの間に利用できるお得感を出した取組を行った。体験については浴衣を着て参拝が可能な着付け

からレンタル、お土産つきの体験等を実施し、若者のSNS情報発信による呼び込み、また中長期でみた場合のリピーター作りを考えている。

- ・総合戦略区分のKPIの28年実績はどのようになっているか
⇒外国人神宮参拝者数が10万9,947人、車いす利用者参拝数が1万7,731人である。
- ・観光客の滞在時間、消費額をカウントできるような体制の検討はあるか
⇒観光客実態調査にて現地で滞在時間、消費額のアンケートを実施しておりこれを基に推計値を出すことを進めている。

(2) 意見交換

- ・総合戦略の「移住者の支援」について、昨年度の伊勢の状況は
⇒社会増減については転出している方が多い状況、具体的取組である空き家改修助成制度を利用したのは1件である。
- ・観光客のリピーターを増やす取組、考えはどのようなものか
⇒ビッグデータ等の分析によると伊勢市には、名古屋、関西圏からの日帰りのリピーターが多い状況である。本事業の体験のメニューも新たな伊勢の魅力を掘り起こし、新たなニーズにより滞在時間の延伸、消費額の増加に繋げていければとして取り組んだところである。リピート率をあげるのも非常に重要なことで、国内のみならず海外にも日本の文化、伊勢の文化に親しみを感じてもらえるよう、どこの国にPRすれば響くのか、どういった地域にどのような情報を発信すれば興味をもってもらえるのかを分析しながら情報発信し、受入の方としては満足して帰っていただいて、また行きたいなと思っていただけるような受入環境の整備が求められているものと考えている。
- ・宿泊件数は前年に対してどのようになっているか
⇒旅館組合加入の施設の状況では、伊勢地区でH27年は約40万、H28は約44万、二見地区がH27年は約17万5千、H28年約21万1千ということで増加している。
- ・インスタ映えするような、面白い場所をつくる仕掛けをつくると、若年層はそれを目的に来て、SNS発信によりどんどん広がっていくのでこうした取組みを積極的に取り入れて継続していきたい。

以上